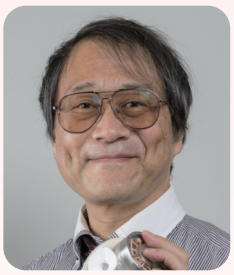
IMJ
日本統合医療学会 会報
IMJニュース
No.22
2016年4月1日発行

編集･発行　一般社団法人日本統合医療学会広報委員会 委員長　川嶋みどり　URL：http://imj.or.jp/
〒981-0932　宮城県仙台市青葉区木町5-29　菅原ビル2-A
一般社団法人日本統合医療学会事務局　E-mail：imj@imj.or.jp　TEL：022-341-2410

巻頭言



統合医療に科学の光を日本から！

山家　智之　東北大学加齢医学研究所心臓病電子医学

2016年12月23～25日，東北大学医学部星陵オーディトリウム，加齢医学研究所国際会議場，艮陵会館におきまして，第20回日本統合医療学会を開催予定にさせていただいており，関係者一同準備に追われております。

テーマは，

「統合医療に科学の光を日本から！」

と，させていただきました。

伝統医療，相補代替医療と申しましても，物理の法則に逆らっているわけではありません。

地球の上では，リンゴを落とせば，その林檎が時々刻々落ちていくスピードは，重力加速度に従って加速していくわけで，石を投げれば，その軌道は，二次関数に従った軌跡を描きます。地球の上では，人体もまた物理法則に従ってその挙動は決定されてしまうことになるので，これは，東洋医学でも西洋医学でも同じことです。

ですから，統合医療，代替医療における評価パラメータも，物理，数学，科学の法則に従っていなければ，その蓋然性を，納税者に説得することができなくなります。

医療として，公的保険に収載されることができない現状では，どんなに優れた漢方や東洋医学の伝統に従った方法でも，日本人がその恩恵を受けることができないことになります。

ちゃんと，科学してみる必要があるのではないでしょうか？

例えば，アーユルヴェーダや，中医学では，四診により，その診断を決定するとされています。この，四診のうち触診による「脈診」は，体外から人体の循環の状態を統合医療の方法論で蝕知し，診断することになります。

もちろん，人体の循環もまた，物理法則に従います。

心臓の収縮により加速された血液は，弾性体である大動脈弓に送り込まれ，そこで大きなヤング弾性率で加速された血液が末梢循環系へ流れ込むことになります。流れ込んでくる血液の拍動は，体表面に近い動脈では，体表からでも観測することができます。

つまり，四診で観測される「脈診」や，「視診」は，物理法則に従った血液の循環を体表から観察するものなので，もちろん，物理や数学の法則で説明ができるものです。

ですから，人工心臓を使ったモデル循環を使えば，「脈診」で検知できることは，物理的に必ず再現されなくてはなりません。

これを利用して，統合医療の伝統に則る診断システムが，医療機器開発に直結し，現実の大きな病院の保険収載の医療として活用されています。

統合医療を，どのように臨床現場にフィードバックするべきか。

皆さん，一緒に考えてみましょう。

現在まで，さまざまなシンポジウムや，パネルなどのご提案をいただいており，近日中にホームページに公開し，一部指定，一部公募で考えております。

統合医療に科学の光を当てるシンポジウム，「食と健康」に関するするセッション，カイロや統合医療に関するセッション，サプリメントのシンポジウム，音楽療法のセッション，認知機能とヨーガ，多分野連携，アロマに関するシンポジウム，女性の会から市民公開講座，また川嶋みどり先生には「西洋医学を超えることが可能か？」と言う，意欲的なシンポジウムの提案をいただいております。

本大会の会場は，東北大学の医学部のキャンパス

で，会の前日まで，医学部の学生が授業や講演を聞いている場所です。

ご存知の先生も多いと思いますが，日本の医学部は現在2023年問題で揺れており，ECFMG勧告により，2023年までに医学部，研修医教育，専門医教育のカリキュラムを大改編して，アメリカの専門医ができることを，日本の専門医も同じ手術を同じ成績でできるように，教育内容を大拡充しているところなので，ちょっと開催時期が例年よりやや後ろに遅れてしまいました。

皆様，医学部の先生になったつもりで，是非ご講演をエンジョイしていってください。

第20回日本統合医療学会
テーマ　「統合医療に科学の光を日本から！」
大会長　山家智之（東北大学加齢医学研究所心臓病電子医学）
日　時　2016年12月23～25日
会　場　東北大学医学部星陵オーディトリウム，加齢医学研究所国際会議場，艮陵会館

寄稿

空海記念統合医療病院プロジェクト

｜星野　惠津夫｜
がん研有明病院漢方サポート科部長

現在私たちは，「空海記念統合医療病院プロジェクト」を推進しています。その目的は，統合医療の更なるパワーアップです。

統合医療は，西洋医学でうまく治療できない患者を，古今東西のさまざまな治療法を駆使して治療する医療ですが，それでも治らない患者は多いのです。その際に患者や家族が行なうことは，神仏に祈ることです。祈りは欧米ではもっともよく行なわれるCAMであり，祈りが患者の症状や予後によい影響を与えることは，しばしば観察されています。

わが国では，宗教的な祈りを治療に用いることはタブーとみなされ，統合医療における治療法としても認知されていません。しかしこれから私たちは，最先端の統合医療に宗教的祈りを加え，それによって治療効果がどう変わるかを検証したいと考えています。

本稿では，そのプロジェクトの経緯，概要，計画，および進捗状況について解説し，「空海記念統合医療病院」の設立趣意書の全文を紹介します。

1．経緯

４年前の2011年12月，がん研有明病院の学術講演会で，高野山真言宗大僧正の池口惠観先生に「医学と宗教」のテーマでご講演いただきました。その後の懇親会で，池口先生から，「『空海記念病院』を創りたいのですが，お力を貸していただけませんか」とのご依頼がありました。

真言宗の僧侶の有志は，長年にわたり，仏教で説く「生老病死の四苦」を除くための実践の場を創りたいと願ってこられましたが，具体的に医療とどのように関わり，どのように展開すればよいか，その道筋が見えないとのことでした。

お申し出を受けて，池口先生に加え，本学会名誉理事長の渥美和彦先生と星野が発起人代表となって，仏教関係者と何回か検討会を重ね，「空海記念統合医療病院」の設立趣意書（別掲）を作成しました。

病院の名称については，池口先生から「渥美先生が長年推進して来られた『統合医療』を加えてはいかがでしょうか」とのご提言があり，「空海記念統合医療病院」に変更しました。そして病院の前段階として，2017年の初夏，東京都心に「空海記念統合医療クリニック」を開設することを決定したのです。

この間池口先生は，2014年に高野山清浄心院の住職を兼任されて極めて多忙となられたため，真言宗病苦研究会の代表で，病に苦しむ衆生を救済するための病院創設を構想されてきた，横浜弘明寺住職の美松寛昭先生を，後任として指名されました。

2．概要

当初はクリニックの形でスタートし，医師や看護師をはじめとするスタッフが育成されて実力が備わってきた時点で，病床を有する専門病院とするか，あるいは全国に同様の機能を有するクリニックを多数開設するかを決定します。また，当学会から全面的な支援を受け，当学会の指導施設となる予定です。

クリニックの設置場所は，全国から患者が集まる医療施設となることを想定し，陸路・空路からのアクセスがよい，上野～東京～品川の駅近くのビル内診療所とする予定です。

診療内容は，西洋医学による検査と治療（紹介元の病院との連携）に加え，漢方，鍼灸，栄養管理が柱となります。血管内治療，細胞免疫療法，サイバーナイフ，粒子線治療など特殊な治療法に関しては，紹介元の主治医と連絡を取りながら，医療連携を行ないます。

クリニックのスペースの60%は診療のために用い，40%は患者指導のための多目的室とします。そこでは定期的に講演会を開催するだけでなく，医師の診療では十分に行なえない食餌・栄養・運動・瞑想・温熱・ヨーガ・音響・アロマなど，さまざまな指導を行ない，診療の待ち時間や診療後，あるいは診療日以外に，闘病に有用なさまざまな知識と技術を学んでいただきます。

診療は保険診療で行ないますが，患者にとって付加価値のある医療施設であるため，選定療養として一定の［予約料］を徴収します。なお，多目的室の利用や，さまざまな指導を受けるのは無料ですが，僧侶による面談を希望する場合は，面談終了時に「ご芳志（金額は自由）」を頂く予定です。

また，患者および患者以外を対象とする会員制の「空

海健康倶楽部」を作ります。個人会員となるメリットは，多目的室を利用し，心と身体を健康に保って暮らすためのさまざまな情報を得ることができ，がんや難病に罹患したときに，優先的に受診できることです。また，法人会員も設定します。この場合，社員の健康の維持・増進などの福利厚生として用い，あるいは社員ががんや難病に罹患した場合の，優先受診の権利が得られます。クリニックで対応できる初診患者の予約枠には限りがあるため，優先受診権は大きな価値があります。

3．計画と進捗状況

2015年10月30日に「空海記念統合医療病院」の発起人会を開催し，12月20日に東大構内の鉄門記念講堂で，「空海記念統合医療病院」設立に向けた，第1回の記念講演会を開催しました。会には130名ほどの医療関係者，僧侶，政財界の方が集まり，盛会でした。本年6月12日（日）には，第2回の記念講演会を京都で開催する予定です。そのプログラム（案）は以下の通りです。

第2回「空海記念統合医療病院」設立に向けた記念講演会

日時　2016年6月12日10時～17時
会場　テルサホール（京都テルサ：JR京都駅南口から徒歩15分）
演者　（発起人代表）渥美和彦（日本統合医療学会名誉理事長）
美松寛昭（弘明寺住職，真言宗病苦研究会代表）
星野惠津夫（がん研有明病院漢方サポート科部長）
（特別講演）松長有慶（高野山真言宗前管長）
（教育講演）大下大圓（真言宗千光寺住職，高野山大学教授）
長堀　優（育生会横浜病院院長）

近日中に「空海記念統合医療病院」財団を設立し，本年秋には主要なスタッフを決定し，都に医院開設申請を行ない，本年末にはクリニックの開設場所を決定し，来年2017年初夏に開院する予定です。

4．「空海記念統合医療病院」設立趣意書

発起人代表：渥美和彦，美松寛昭，星野惠津夫

科学技術の進歩に支えられて現代医学は大きく発展し，多くの病気は治るようになりました。しかし，癌や認知症をはじめ，治療の難しい病気は依然として多く，治療の副作用や後遺症に苦しむ患者も少なくありません。

近年西洋医学の限界が明らかとなり，欧米諸国では東洋の医学と哲学を取りいれた統合医療が模索されています。わが国でも渥美は，日本統合医療学会を創設し，古今東西の叡智を集めた医療の必要性を訴えて来ました。

美松は，病と死に苦しむ人々との関わりの中で，仏教者の立場から病苦研究会を立ち上げ，光明皇后の創られた施薬院や悲田院のような施設をイメージし，弘法大師空海の精神を具現した病院の建設を目指して来ました。

星野は，がん研有明病院に漢方サポート外来を開き，日本の伝統医学である漢方を中心とする統合医療により，多くの癌患者で症状が改善して元気な延命が可能となり，時に奇跡的な治癒が起きることを示してきました。

弘法大師空海は遣唐使として中国に赴き，わが国に密教を伝えました。密教では護摩行や加持祈祷などの祈りによって病気を治しますが，明治維新後はスピリチュアルな祈りによる治療は，医療の枠内から排除されました。

僧侶の役割は，冠婚葬祭の導師となり，死後の極楽往生を保証するだけではなく，現実世界の人々を救うことです。僧侶が「抜苦与楽（苦痛を除き楽にする）」や「施無畏（安心させる）」を実践すれば，患者は救われます。

現代の医療もそれを担う医師も，肉体の修理のみに汲々とし，人間に本来備わる自然治癒力を引き出す努力を怠って来ました。その結果，現代医学で治らない患者は匙を投げられて絶望し，「医療難民」となっていきます。

このような現状を打開するために，私たちは「空海記念統合医療病院」を創設することとしました。この病院では仏教の精神を背景とし，技術的には西洋医学と東洋医学，さらに仏教医学を柱とした統合医療を行います。

この新しい医療により，様々な難治疾患の新しい治療法を開発し，現代医療の網から漏れた人々を救うことができると考えます。可視の医学と不可視の宗教を統合した新しい医療の創造は，日本人に課せられた使命です。

弘法大師空海が嵯峨天皇から高野山の寺域を賜って1200年となる，2015年から数年以内の「空海記念統合医療病院」の開設に向けて，全力を注いでまいります。皆さまの暖かいご支援を，よろしくお願い申し上げます。

トピックス Topics

歯科医師の職業病を自力で克服した私の体験

小山　悠子（医療法人社団明悠会
サンデンタルクリニック理事長）

超高齢社会を迎え，健康をどう保持していくのかは，今まで未知の分野であった。誰しも知らず知らずに自分が老いていくことに，気づくこともない。

私自身も，その「老化」に気づいていなかった。そして，50歳前後で突然起こった，急激な「老化」現象！手先を動かしただけでも腰や体中がきしみ，痛み，洋服を着ることもままならず，階段も上がれず，横になっても体中痛くて眠れない。職業病だった。歯科医師は，心疾患による死亡率が高く，目は削った粉塵などが入り角膜損傷，切削器械タービンによる難聴，呼吸器疾患による死因も多い。そして，不自然な姿勢を長時間続けて行なう歯科診療は，頸椎損傷が代表的だが，ある筋肉や骨に対する負荷が集中し，筋肉の過緊張と運動不足や加齢によって筋力が弱り背骨を支えられなくなり，背骨に故障が起こってくる。私も，肩こりは自覚症状があったものの，臀部や背中の筋肉が固まりきって大変な異常事態になっていたとは思いもよらず，歩けないほどの腰痛を抱えながらもまだ診療を続け，とうとう動けなくなって，寝たきりになった！

寝たきりバアさんになった50歳の私は，ベッドに横

たわり，天井を睨む毎日が続き，誰が養ってくれる？どうやって生きていくの？ と，頭から血が引く思いだった。そんなパニック状態のなか，どうもこれは運動不足が原因ではないかと本能で悟った私は，とりあえずジムへ行ってみて，幸運なことにBalletと出会った。Ballet lessonは，怪我しにくい，正しい身体の使い方を教えてくれ，左右対称に筋肉を作り，足底筋を鍛えるシステマティックなエクササイズのプログラムであって，特に老化に抗うのにぴったりな教えであった。こつこつと地道に「痛くていやなストレッチ」やバーレッスンの筋トレに励み，筋肉ができて徐々に元気な身体を取り戻していった。

最近，筑波大学大学院人間総合科学科久野譜也教授の著書で，「筋肉はエネルギー生産工場，工場が増加すると，疲れをためることなく活発な活動ができるようになる。中高年になって，疲労や活力の衰えを感じるようになってきたなら，“筋肉という工場が少なくなってきたんだな”と自覚して，筋トレをするべき」という一文を読んで，まさしくこれだと同感した。

一般的に，ゴルフをしているとか，マラソン，ジョギング，ウォーキングしていることで運動をしている気になっている人が多い。そうした有酸素運動だけでは，脂肪は燃焼するが，姿勢を保持する大きな筋肉は筋トレをしないとつくられないので，科学的に最低限どういうことが必要なのかがわかって運動する必要がある。

また，正しい姿勢をとることは，椎間板への圧迫も，股関節，膝関節にも負担が少なくなり，膝関節痛も発症しない。

テーマ　「筋肉は，美しさと健康を創る」
日　時　2016年6月4日(土)13：30～16：00
会　場　日本赤十字看護大学　210教室
（東京都渋谷区広尾4－1－3）
講　師　1. 小山悠子「筋肉は美しさと健康を支える」
医療法人社団明悠会サンデンタルクリニック理事長
2. 右田尚子「若さの秘訣は筋肉にあり！毎日のチリツモ運動実践法」
管理栄養士，健康運動実践指導者，産業カウンセラー
筑波大学大学院人間総合科学科久野譜也教授の「日本全国を元気にする」というミッションを掲げて設置された，大学発ベンチャー(株)つくばウェルネスリサーチ所属

そこで，身体は正しく使って，壊れないようにする，それは若さと美しさにも繋がるということを，みなさまと共に学ぶために，女性の会では下記のようなセミナーを開催いたします。女性はもちろん，男性の皆様もどうぞ奮ってご参加ください。

トピックス Topics

「第４回日本統合医療学会サマーセミナー2016 in郡山」へのお誘い

小野　直哉（第4回サマーセミナー実行委員）

現在，「統合医療」の概念が注目され，統合医療の具体的な実践を広める段階に入りつつあります。日本統合医療学会では，現時点では科学的根拠は不十分でも，伝統医学や相補・代替医療も学術対象とし，統合医療の学術活動を促進するために，評価法など，学術的にも解決すべき多くの課題を抱えています。

そこで，日本統合医療学会の理念を共有し，日本の統合医療の現状と課題，今後の展望について，日本統合医療学会の会員相互による忌憚のない意見を交わす場が必要とされています。そこで，今年も7月16日(土)・17日(日)の2日間，福島県郡山市の磐梯熱海温泉で，第4回日本統合医療学会サマーセミナーを開催いたします。

今年は，東日本大震災から5年目の節目の年でもあります。そこで，今年のサマーセミナーでは，「災害と統合医療－ネクスト・クライシスへの備え，みんながいきるために－」をテーマに，「災害時に統合医療は何ができるか？」を，初日の話題提供やワールド・カフェ，懇親会，二日目のセッションや総括討論を通じて，参加者全員で忌憚なく議論し，考えます。

今年で第4回目を迎えます日本統合医療学会サマーセミナーは，日本統合医療学会の会員である日本の統合医療を担う方々が，日本の統合医療とは何か，共通認識を得ると同時に，日本統合医療学会の在り方や現状，課題を参加者全員で忌憚なく議論し，考える，数少ない全員参加型企画となっております。第4回日本統合医療学会サマーセミナーのプログラムの詳細及び申し込みに付きましては，4月中に日本統合医療学会のホームページ上に掲載を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。

事務局だより

【会議開催報告】

■2016年2月7日　平成27年度ウインターセミナー(東京大学医学部教育研究棟13F)

■2016年3月14日　平成27年度第3回通常理事会(東京大学医学部教育研究棟13F)

【学会事業報告】

■2016年4月1日より本部事務局移転
新住所：〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町5-29 菅原ビル2-A
TEL：022-341-2410　（詳細はHP参照）

【今後の学会事業予定】

■2016年6月3日　平成28年度社員(会員)総会(東京大学医学部図書館333号室)

（文責：事務局長　河野　明正）

編集後記

●東日本大震災と原発事故から5年，道路や港湾の復旧はかなり進み，仮設から災害復興住宅への移転も逐次行なわれていますが，住民の方たちの加齢とともに，心身の新たな健康面の問題も生じています。心のケアと言いますが，まずは身体の不調を和らげ“未病”の段階で手を打つことが重要です。今，まさに統合医療的アプローチが求められていると思います。4月から学会事務局も仙台に移転し，第20回学術集会も東北大学です。何かができる予感がするこの春です。（川嶋みどり）